

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.5	
Q1 室内環境									
1 音環境				-	-	-	-		
1.1 室内騒音レベル				-	-	-	-		
1.2 遮音				-	-	-	-		
1 開口部遮音性能				-	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-		
1.3 吸音				-	-	-	-		
2 温熱環境				-	-	-	-		
2.1 室温制御				-	-	-	-		
1 室温				-	-	-	-		
2 外皮性能				-	-	-	-		
3 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				-	-	-	-		
2.3 空調方式				-	-	-	-		
3 光・視環境				-	-	-	-		
3.1 屋光利用				-	-	-	-		
1 屋光率				-	-	-	-		
2 方位別開口				-	-	-	-		
3 屋光利用設備				-	-	-	-		
3.2 グレア対策				-	-	-	-		
1 屋光制御				-	-	-	-		
3.3 照度				-	-	-	-		
3.4 照明制御				-	-	-	-		
4 空気質環境				-	-	-	-		
4.1 発生源対策				-	-	-	-		
1 化学汚染物質				-	-	-	-		
4.2 換気				-	-	-	-		
1 換気量				-	-	-	-		
2 自然換気性能				-	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御				-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.43	-	-	3.5	
1 機能性				-	-	-	-		
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	-		
1 広さ・収納性				-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				-	-	-	-		
3 バリアフリー計画				-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-		
1 広さ感・景観				-	-	-	-		
2 リフレッシュスペース				-	-	-	-		
3 内装計画				-	-	-	-		
1.3 維持管理				-	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				-	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.50	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			4.2	0.50				4.2
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30				
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60				
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり		床荷重:4500N/㎡以上。	5.0	0.30				
3.3 設備の更新性			3.4	0.40				
1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20				
2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20				
3	電気配線の更新性	電気配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10				
4	通信配線の更新性	通信配線は空配管内に設置されます。	5.0	0.10				
5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20				
6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20				
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.57				1.8
1 生物環境の保全と創出		—	1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		—	2.0	0.40				2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	2.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上		—	3.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性								3.2
LR1 エネルギー			—	—				—
1 建物外皮の熱負荷抑制		—	—	—				—
2 自然エネルギー利用		—	—	—				—
3 設備システムの高効率化		—	—	—				—
集合住宅以外の評価		—	—	—				—
集合住宅の評価		—	—	—				—
4 効率的運用		—	—	—				—
集合住宅以外の評価		—	—	—				—
4.1 モニタリング		—	—	—				—
4.2 運用管理体制		—	—	—				—
集合住宅の評価		—	—	—				—
4.1 モニタリング		—	—	—				—
4.2 運用管理体制		—	—	—				—
LR2 資源・マテリアル			—	0.50				3.2
1 水資源保護			3.4	0.20				3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無		—	3.0	0.70				
2 雑排水等利用システム導入の有無		—	3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60				3.1
2.1 材料使用量の削減		—	2.0	0.11				
2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.22				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.22				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.22				
2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	—	—				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	4.0	0.22				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20				3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		—	3.0	0.30				
3.2 フロン・ハロンの回避		—	3.5	0.70				
1 消火剤		—	—	—				
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50				
3 冷媒		—	3.0	0.50				
LR3 敷地外環境			—	0.50				3.2
1 地球温暖化への配慮		—	—	—				—
2 地域環境への配慮			3.3	0.50				3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.2	0.25				
1 雨水排水負荷低減		—	3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制		—	3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		—	2.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制		—	1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮			3.2	0.50				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1 騒音		—	3.0	1.00				
2 振動		—	—	—				
3 悪臭		—	—	—				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40				
1 風害の抑制		—	3.0	0.70				
2 砂塵の抑制		—	—	—				
3 日照障害の抑制		—	3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインと広告物照明の扱いの項目の過半を満たす。	5.0	0.70				
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		—	3.0	0.30				

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	-	-	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0	-	-	2.0	3.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0	-	1.0	-	2.0	3.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	-	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m ² K)	-	窓システム	-
住戸部分	-	外皮UA値	-
窓システムU値	-	外壁	-
窓システムU値	-	η AC	-
窓システムU値	-	η AH	-

3.1.1 昼光率

昼光率 -

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口面積率 -

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 - VA/m²

1.2.1 広さ感・景観

天井高 - m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース - レストスペース -

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 - 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 - 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 4.525 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 10.8%

3.2 荷重のゆとり

床荷重 5400 N/m²

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 40% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 75% 水平投影面積率 0% 地表面対策面積率 30% 舗装面積率 44%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI_m 対象が断熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

3 設備システムの高効率化

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

非住宅部分

太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -

集合住宅の評価

BEI/BEI_m 再エネ有 - 無 - オフサイト再エネ有 - -

一次エネ削減率

再エネ有 無 -

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 -

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品目 断熱材 エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 -

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 57% 隣棟間隔指標R_w 8.44

地表面対策面積率 30.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 514m² 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 89.4 m 基準高さH_b 9.95 m

緑地 3,581m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²